

地域課題の解決に向けた取組

地域との協力による もりぎょう 森業の推進について

森業とは、環境保全や癒しなどの森林の価値を活かした取組

網走西部森林管理署

【はじめに】

網走西部森林管理署は、遠軽町及び湧別町に所在する約 10 万 6 千ヘクタールの国有林を管理しています。その広さは、エスコンフィールド北海道約 2 万個分に相当します。

当署が所在する遠軽町は、20 年前に白滝村、丸瀬布町、生田原町、遠軽町の 4 町村が合併して誕生しました。かつては白滝、丸瀬布、生田原の各地区に営林署があり、林業が盛んな地域です。

丸瀬布の「いこいの森」では、国内で唯一動態保存されている森林鉄道蒸気機関車「雨宮 21 号」が運行され、北海道遺産にも選定されています。当署は毎年、出庫式に招待され、地域と長年にわたり良好な関係を築いています。

【地域の現状】

管内の遠軽町白滝地区は、黒曜石の一大産地であり、日本ジオパークに認定されています。

さらに、令和 5 年には周辺の遺跡群から発掘された石器などの出土品が国宝に指定されました。遠軽町では、国宝指定を契機に、貴重な地域資源を地域振興や環境教育に活用する取組を進めています。

【白滝ジオパーク推進協議会との連携】

当署は、白滝ジオパーク推進協議会と協定を結びジオパーク活動に協力しています。今年 10 月には、黒曜石の露頭を見学する「黒曜石ジオツアー」に参加し、国有林の取組を PR しました。ツアーでは、当署作成のチラシを配布し、休憩時間には山頂に自生するマツの特性について解説しました。参加者の皆さんに、地質だけでなく森林の魅力も知っていただく機会となりました。ジオガイドの方からは「今後のガイドに生かします」との声をいただき、ジオパーク関係者との意見交換も実現し、地域とのつながりをさらに深める貴重な場となりました。

【今後に向けて】

黒曜石の産地が国有林内にあることから、地域の方と協力し、今後もこの貴重な資源を保全していきたいと考えています。遠軽町内には、林業に関連する施設等も多くあるため、地域の方と協力して森業の推進にも取り組んでいきます。



黒曜石ジオツアー

さらに、今年度からリーフアート（葉っぱの切り絵）を活用した森林環境教育も実施しており、地域の方々と交流する機会が増えています。今後も、より多くの方に森林に親しんでいただき、地域に愛される国有林を目指してまいります。



リーフアート（黒曜石キャラクター「いしのたからくん」）